

# 呉医療センターで診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

① 該当者	2019年1月1日～2024年12月31日の期間に当院にて、原発性肺癌もしくは転移性肺腫瘍に対して肺切除を受け、術前のCTで気腫性変化が認められた患者さん			
② 研究課題名	術前吸入療法がCOPD合併肺癌切除後の合併症減少に与える影響の検討			
③ 実施予定期間	2025年1月～2025年12月			
④ 実施機関	独立行政法人国立病院機構 呉医療センター			
⑤ 研究代表者	氏名	三村 剛史	所属	国立病院機構 呉医療センター 呼吸器外科
⑥ 当院の研究責任者	氏名	三村 剛史	所属	国立病院機構 呉医療センター 呼吸器外科
⑦ 使用する試料	収集する診療情報は下記の通りです。 収集する情報項目:年齢、性別、喫煙歴、併存疾患、術前CTにおける腫瘍径、Goddard score、術前PET-CTのSUV値、術前呼吸機能、術前吸入薬使用の有無と種類、臨床病期、術式、手術時間、出血量、ドレーン留置期間、入院期間、術後合併症、組織型、血管侵襲やリンパ管侵襲の有無、病理病期、再発の有無、無再発生存期間、全生存期間、死因 ※上記診療情報は、研究終了後まで厳重に保管され、その後適切な方法で破棄されます。 診療情報は研究者によって保管されます。 ※当院の研究者が収集した情報を取り扱います。			
⑧ 目的	肺切除を行う患者において、元々の肺の状態は術後合併症に大きく影響します。特にCOPD等、気腫性病変を有する患者さんでは、肺炎や無気肺、肺そのものが脆いことによるエアリーク(空気漏れ)等の呼吸器合併症を起こしやすいことが知られています。COPDを伴う肺切除を行った患者さんにおいて、術前の吸入療法が術後合併症を低減するという報告がありますが、近年承認され使用されるようになった合剤の吸入については、その術前療法としての有効性がこれまで検討されていません。 本研究では、肺切除を行った気腫性病変を有する患者さんについて、術前吸入薬の有無と術後合併症の関連性について検討を行います。本研究により、合併症のリスク因子であるCOPD等気腫性病変を有する患者さんに対して適切に術前吸入療法を行うことができるようになり、肺切除後の合併症が減少することが期待されます。			
⑨ 方法	①に記載の該当患者さんの、⑦に記載している診療情報を収集しデータ解析を行います。 術前に吸入療法の有無と、術後合併症や入院期間などとの関連を比較・検討していきます。			
⑩倫理審査	倫理審査委員会承認日	2025年1月23日		
	院長承認日	2025年1月23日		
⑪公表	個人情報保護は確保したうえで、研究成果を学会や医学論文などに発表することがあります。			
⑫プライバシー	本研究では、名前・住所・電話番号等の個人情報は一切使用しません。			
⑬知的財産権	将来、この研究の成果が得られ、知的財産権が生じる可能性もありますが、その権利は研究者もしくは所属する研究機関に帰属します。			
⑭利益相反	本研究では、利害の衝突は一切生じません。			
⑮問い合わせ	連絡先	三村剛史	電話	0823-22-3111(代表)
	国立病院機構 呉医療センター 呼吸器外科			

## 呉医療センターで診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の  
問い合わせ先にご連絡ください。

呉医療センター院長